

15

キーワードは地域密着！ 一般市民に大きくドアが開かれる

頑丈で大浴場もあり多人数を収容可能なクラブハウスを持つゴルフ場が大規模災害時の避難場所として活躍したのは記憶に新しい。ゴルフシミュレーターを備えて幅広い世代層が楽しめる施設へと変貌するゴルフ場も出現する中、練習場もワーケーションの場として機能するようになった。超高齢化社会とライフスタイルの多様化で、地域密着型のゴルフ施設へのニーズが高まる。

ゴルフ場を被災者に開放

大浴場の湯船に、首までつかる。両手両足を思い切り伸ばして、疲れを癒す。被災した人々が「災害に強い」ゴルフ場の底力を実感した瞬間だった。

2018年の7月。九州、四国、近畿は豪雨により甚大な被害を受けた。のちに西日本豪雨と呼ばれ続けることになる激甚災害。岡山でも道路の崩落により交通機関がマヒし、家屋の損壊や浸水の被害が一気に拡大した。

被災者たちは変わり果てた我が家

を見て意気消沈する暇もなく、猛暑がぶり返した中、汗だくになって復旧作業を続けた。当然のことながら「入浴したい」という声がそこかしこから上がった。

こうした事態に対応したゴルフ場が、全国にいくつもある。例えば岡山吉備CC。西日本豪雨の際にはクラブハウス内の大浴場の開放を素早く決断している。大浴場にシャワー、リンス、ボディーソープ、タオル、歯ブラシも完備されていることを明記した「お風呂無料開放のご案内」と題した記事をSNSなどで告知。解放初日は約60人、翌日も100人を超える地元の住民が利用した。

広島県竹原市の瀬戸内ゴルフリゾートも、豪雨で被災した人々の避難所として機能した。高台にあることが多く、頑丈なクラブハウスを持つゴルフ場は、災害に強いのだ。

地域の避難場所に指定されているゴルフ場は全国に数多くある。神奈川県茅ヶ崎市のGDO茅ヶ崎ゴルフリンクスは、木造家屋の密集する住宅街に隣接。小規模の住宅火災が大規模なクラスター火災に発展してしまふ危険もはらんでいるだけに、存続の危機に瀕した時には市民運動が

起きたほど。住民たちにとっては命をつなぐ一時避難の場所として、なくてはならない場所もあるからだ。

同コースは、市民との距離を近づける努力も行っている。2階のカフェはゴルフアール以外の一般市民も利用でき、今年の3月初旬には新型コロナウイルスの影響で修学旅行が中止になってしまった地元の小学6年生たちのためにゴルフ場を開放した。「茅ヶ崎市4校合同 卒業記念『Special Days』 in GDO茅ヶ崎ゴルフリンクス」と銘打たれたこのイベントでは、小学生たちがクラブを手にアプローチやパットなどのショートゲームにチャレンジ。フットゴルフを楽しんだ後は人文字制作、エコ風船飛ばしなどの思い出作りで締めくくった。

「外からは木しか見えないから、中に入るまでは、こんなに広々としたところだとは思わなかった」と驚きの表情を浮かべていた子供たちはゴルフにチャレンジして「もっと難しいと思っていただけ簡単。今度は家族ともやりたい」と語るまでになった。

花火大会や市民イベントも

地元の市民にゴルフ場を開放する



GDO 茅ヶ崎 GL は今年の3月8日、地元の小学生のために修学旅行の代わりとなるイベントを開催 (写真: 清流舎)



恒例となった鹿沼72の花火大会。キッチンカーなどが並ぶゴルフ場に、今年も約400人の観衆が詰めかけた (写真・清流舎)



2台のシミュレーターはボール回転数や打ちだし角度などもチェックできる最新機能を備えている。ここでホールアウト後に反省会をしたり、ラウンド中に生まれた課題を修正することも可能 (鹿沼72CC で=写真: 清流舎)

イベントを続けているゴルフ場は多い。三重県の津カントリー倶楽部は天皇誕生日の2月23日にコースを開放して「とこわかウォーキング2022」を開催。親子連れなど3000人を超える参加者があった。

スマホアプリを使ったフィールドデイスカバリーやスタンプラリーなどでゴルフ場のフィールドを有効に活用。ステージではカラオケ大会やビンゴ大会が行われ、キッチンカー

やレストランのフード、無農薬味噌づくり、スナックゴルフなどが盛り込まれた。

栃木で3コースを展開する鹿沼グーループも、様々なイベントを開催している。鹿沼72CCでは、5月28日に1000発が打ち上げられる花火大会が開かれた。露店は2軒、キッチンカーも2台出て、約400人の観衆が詰めかけた。広いゴルフ場だからこそ打ち上げが可能である一尺

玉が見られることもあって、すでに3回目となり市民にもおなじみのイベントとなっている。

8月5日より、ゴルフシミュレーター2台を導入したラウンジがオープン。ボール回転数、ボールスピード、打ち出し角度が測定できるため、ラウンド前後の調整にもうってつけだ。

鹿沼72の場合、屋外に300ヤード・20打席の練習場がある。にもか

かわらず、わざわざシミュレーターを導入する狙いはどこにあるのか。ターゲットはコロナ禍で増えている35歳以下の世代。この若い世代にバーチャルなラウンドを通じて技術だけでなくルールやマナーを身につけてもらおうというわけ。

同コースではすでに「U35(アンダーサーティーファイブ)会員制度」を新設。これは35歳以下の、上達したいと願うすべてのゴルファーが対



山梨県甲府市生まれ。甲府一高→日大芸術卒。82年東スポ入社。「世界一速いゴルフ速報」の海外特派員として男女のメジャー大会など通算300試合以上を取材。同社で運動部長、文化部長、広告局長を歴任後独立。フリージャーナリストとして本誌を始め、日刊ゲンダイなどでも連載中。(株)清流舎代表取締役社長。東京運動記者クラブ会友。日本ゴルフジャーナリスト協会会長。「みんなの介護」にも連載し、終活ジャーナリストとしての顔も持つ。自殺予防学会会員。



多田ハイグリーンのスタディ・ブース。9時間こもる学生もいるとか。(写真提供：多田ハイグリーン)

取材後記

3年後の2025年、団塊の世代が75歳の後期高齢者に達した時、どのようなことと直面するのか。運転免許の返納、収入減による経済的な問題、老化による体力の低下、交際範囲が狭まることなど、家にこもりがちになる条件が増えていく▼ここで懸念されるのが「フレイル・サイクル」。加齢とともに筋肉量などが低下し、身体機能が衰える。運動不足は食欲低下を呼び、栄養不足などの要因が重なり悪循環に陥る。その結果要介護状態へと移行していく。これを防ぐには、この悪循環を早期に断ち切ることが重要になる▼認知症高齢者も320万人になると推計している、厚生労働省は3年後に地域包括ケアシステムの構築を目指している。これは、重

度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制のことだ▼ここで言われている「地域」とは、30分以内に必要なサービスが受けられる、中学校区程度のエリアだ。その地域において医療・介護などのサービスが提供されるため、2025年以降は「地域」という単位に対する意識はより強まっていく。そうした中で、ゴルフ場や練習場もまた、地域住民との密接な関係を構築していくことが重要だろう。ゴルフやシミュレーターの魅力は外出の動機づけとなり、フレイル・サイクルを予防する大きな武器になりうる。

象で、現在の実力は問われない。

「実力不足のままラウンドし、辛い思いをしてゴルフを辞めてしまおうというのもよく聞く話。コースデビュー前の若い人々にまずシミュレーターで腕を磨いてもらい、コースデビュー後も楽しくゴルフを続けてほしいという思いも垣間見える。」

「一方でシニア世代のメンバーたちにも『下半身が疲れない。ハーフだけプレーして後はシミュレーターで』

という声もあり好評だという。

「また同コースでは地元一般客向けにピザステーションを新設。オーブンキッチンで生地から作ったピザを提供している。ピザを食べに来たついでにシミュレーターでプレーし、コースデビューにつなげてもらう道筋が8月に完成したわけだ。」

「ゴルフ場だけではない。練習場も多様なサービスに舵を切っている。兵庫県川西市の『多田ハイグリーン』

はテニスや野球のバッティングドーム、トレーニングジムや温浴施設のあるトップトレーサー付きのドライビングレンジとして有名だが、6月からはラウンジや自習室、会議室も新設。ワーケーション対応の多機能施設へとグレードアップしている。」

「ブースは一度ご利用いただくトリピートしていただく方が多く、3時間から5時間は、こもられています。ご自宅に近い学生さんで休日に11時か

ら20時までこもらえる方も出てきました。ご主人のゴルフ練習をお待ちの間、奥様がご利用されるケースがありました。ラウンジは休憩場所として活用していただいています。フィットネスよりも温浴施設をご利用のお客様が多いです。」

ら20時までこもらえる方も出てきました。ご主人のゴルフ練習をお待ちの間、奥様がご利用されるケースがありました。ラウンジは休憩場所として活用していただいています。フィットネスよりも温浴施設をご利用のお客様が多いです。」

「地域の人々がゴルフ施設にどんどん入ってくる時代。その試みが、すでに一部では軌道に乗りつつある。」

「地域の人々がゴルフ施設にどんどん入ってくる時代。その試みが、すでに一部では軌道に乗りつつある。」